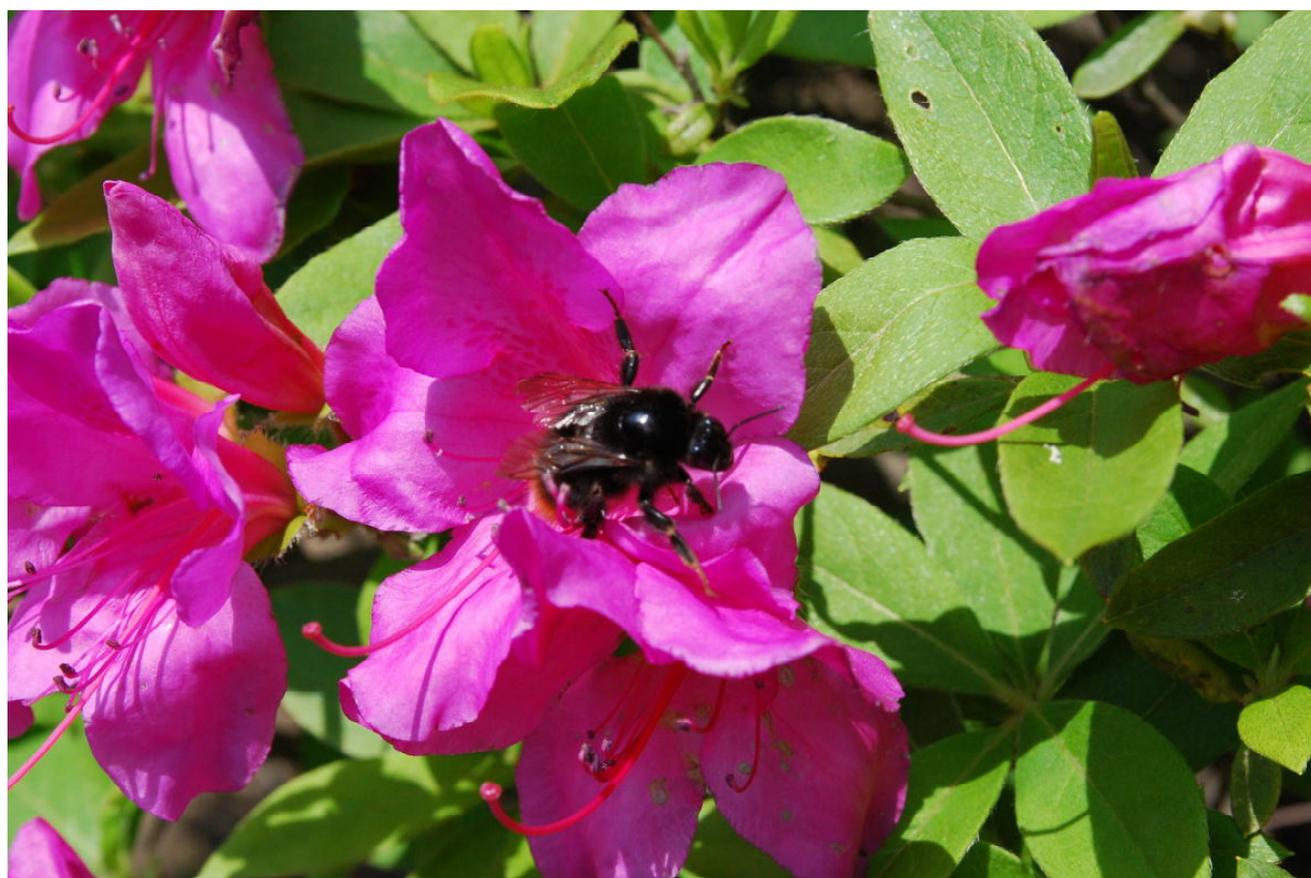


かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



五月の薫に誘われて
(5月4日 大教会神苑で)

立教175年
5月号

大教会新機構、人事発表

新たにおたすけ掛新設 任期、教祖130年祭終了まで

大教会では、教祖130年祭に向けての新機構、並にそれに伴う人事を4月21日付で発表。今回の機構で、育成掛を育成部に昇格。同部におたすけ掛を新設。大教会輸送部は廃止となった。

の帰参をはじめ、時折のおちばがえりの際、詰所と連絡をとる。

辞令交付は5月21日。祭典後、任期は教祖130年祭終了まで。各部・掛、並びに部員・掛員名は5ページに掲載。

おたすけ掛は、大教会祭典後、願い出により身上、事情に関するおたすけ講話・相談、おさづけの取り次ぎなどを行う予定。輸送関係は、各ブロックごとに担当者が本部祭典

教祖誕生祭

「おかえり講話」実施

4・18
布教部

布教部(中村剛部長)は4月18日、午後7時から約1時間、詰所3階講堂で、山本祐造先生(敷島大教会役員)を講師に迎え「おかえり講話」を実施、宿泊者など約150人が参加した。

先生は「元一日の親神様の大きなご恩を忘れることなく、それをまだ知らない人たちに伝えていくことが大切」と私たちお道の信仰者の使命を強調された。

成人目標に向け

一歩でも前進を

第94回
婦人会総会

4月29日付、天理時報で既報の通り去る4月19日、婦人会第94回総会が親里で開催され、国内外から約4万5千人の会員が参集、真柱様のお言葉、中山はるえ婦人会長のあいさつを受けた。一昨年、創立100周年の節目を越え今年は新たな成人に向けての総会となった。

午後からは記念行事として詰所に会場を移し「支部の集い」が行われた。総会における真柱様



支部長のあいさつを熱心に聞く参加者

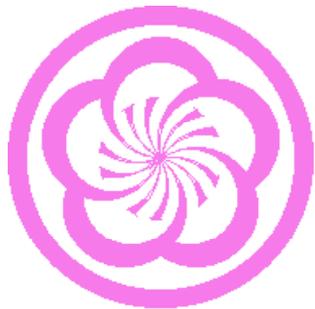
のお言葉、中山婦人会長のあいさつをもとに話し合い、会員の意識、成人を高めようというもの。笠岡支部(上原きよみ支部長)は、午後0時30分から講堂で295人(受付数)が参加して「支部の集い」を行った。参加者を10-11人の28班に分け、各班の司会者を中心に活発な話し合いがもたれた。この後、上原きよみ支部長は「総会は親神様、教祖の教えを信じさせて頂く私たち婦人が一堂に



グループに分かれ司会者を中心に活発な話し合いが行われた

会して、直々に親の声を聞かせて頂く場だと思
ます。真柱様のお言葉、婦人会長様のごあいさつ
を聞かせて頂いても心に残ることは皆さんさまざ
まであったと思います。今、各班で話し合っ
て、いろいろな受け取り方を感じられると思いま
す。また聞くだけでなく、自分から思いを声に出すこ
とも意義のあるものです。今日、お聞かせ頂いたお
話しの中で心に響いたことを、この一年の目標に

して、先人の精神と態度を受け継いで、日々頑張
たことを来年、教祖にご報告して頂きたいのです。
婦人の元気な教会は、教会が元氣だと聞かせて頂
きます。そして大教会長様が教祖130年祭に向けて
目指しておられるおつとめ奉仕人の増員に苦心さ
せて頂けたら有り難いと思います」とあいさつ。
道の台として、女性らしい温かさをもって実の
よふぼくに育ってもらえるよう導かせて頂くこと共
に、自らも成人目標の実行に向け、実のよふぼく
に育つ努力を誓い合い閉会した。
同支部では「支部の集い」に向け今年、一月か
らスケジュール、係、話し合いの司会者などを決
め準備を進めてきた。
参加者全員に帰路の際、食べて頂くこうと袋詰に
されたクッキーと飴のセットが配られた。



婦人会笠岡支部 おつとめ大会

5月31日(木)

9時 受付

10時 おつとめ開始

昼食

13時15分 記念講演 宮崎伸一郎先生

上原明勇様

青年会委員長に任命される

去る4月25日、青年会本部4月例会
において辞令が交附され、笠岡分会委
員長に、大教会後継者上原明勇様が任
命された。



上原明勇様

尚、副委員長は、上原繁次、中村剛
史、杉原善朗の三氏となった。

温故知新

いきいきエピソード 13

閑話休題 我が「いきエピソード」

今回、教祖百三十年祭に向かうに当たり、大教会の機構を大幅に替え、できるだけ役割に当たる人々を六十歳までとし、部内先々役割に当たる人達を選出してくださいようお願いして、今月の「かさおか」に発表されたような陣容になった。六十五歳くらいで一寸寂しい思いをした人も中にはあるのではと思うが、大教会のこれからの姿を考えて、後輩の育てに心尽くして通って頂きたいと思う。

新しく役割に当たる人達に望みたい事は種々あるが、私がやらなくても他に部員はいるから誰かがやってくれる、大教会での会議なんか出なくてもいい、という気持ちになって貰っては困る。人に都合を合わせて会議に出、話し合い談じ合い大教会の教務、事務、行事開催に心を尽くさせて頂くという気持ちが大切と思う。

私は、教祖九十年祭の年に道友社を退かせて頂き、大教会長様に無理をお願いして、広島

布教の家に出させて頂いた。

入寮願書に署名捺印頂く時、「初代さんが伏せ込まれた場所や。まあ頑張ってきて来い。」と、楽しそうに署名頂いた。大教会史の編纂があり、月刊の「かさおか」誌の編集があり、3月21日付で准承事の拜命を頂いていたので、お許し頂けないかと思っていただけに嬉しかった。

広島教務支庁の前に通りを挟んで印刷所があったので、行くなり毎月の「かさおか」誌の印刷を依頼した。夜布教から帰って編集して原稿を中元本店印刷に持って行く。出来上がりを二十日に会議に間に合うように持って帰る、という月刊スケジュールで勤めさせて頂いた。時に旅費がないので、自転車の後に、おつとめ着をカバンに入れて(寮祭があるので寮に持って来ていて、大教会月次祭の役割があるので)、かさおか誌と一緒に積み、帰って来た時もあった。八本松の坂を上りきれば何とかなろうという気持ちでペダルを漕ぎ始めたが、その先にまだ幾重にも登り坂があり、大変な道中だった。かさおか誌を編集する人がいない、という事で九十年祭の前年十月頃引き受けさせて頂いて以来、平成元年頃まで携わらせて頂いた。九十

年祭は1月26日から2月18日までで、その間天理時報は日刊となるので、この時も日刊天理時報の編集の中を縫うようにしてかさおか誌を編集したのを憶えている。

大教会の御用は、苦勞して勤めさせて頂いて初めて自分の成人の糧となるのだと思う。

老会長様の「おふでさき御話」の編集出版を大教会から依頼されたのもこの頃であった。

もう少し丁寧な編集ができればと思っていたが、出版を急ぐという事で、頑張らせて頂いた。この時は原典に親しむ事の必要性、大切さを学ばせて頂いた。私はこれをきっかけにおふでさきも、以来変体仮名のおふでさきに親しませて頂き、おさしづを通読させてもらい、二代真柱様の講話を真柱訓話集を通読させて頂いた。

大教会の役割は事務、教務、そして雑務の分担であるが、その中にワシがワシがという我を捨て皆と話し合う中に溶け込み協力し合い、信仰の成人へ向かう契機を掴ませて頂きたいものである。特に三十歳前後の若い青年層に強くそういう姿勢を望みたい。なお私は今回で大教会史料部長を退かせて頂きました。

(大教会理事)

談話室



ひのきしん隊世話班に勇む

明石市分教会 杉原善朗

「一、我らあらしきとうりようは、たすけ一条の喜びに徹し、世界たすけの先達となろう」

おやさとふしん青年会ひのきしん隊の1日は、おぢばに響き渡るような勇み心いっぱいのあるきとうりよう指針の唱和から始まります。この時、朝礼台上で大きな声を張り上げているのがひのきしん隊世話班です。

世話班というのは、青年会長様真柱様の親心に添わせていただき、世話班班長・副班長を芯に一手一つの和を以て、入隊された方のお世話取りをつとめます。

4月にこの世話班の御用でおぢばにお引き寄せいただきました。今回で三度目となりましたが、毎回大きな勇み、喜びを与えてもらっています。世話班の御用というのは正直大変なのですが世話班をさせていだいて本当にありがたい、と心から思っています。ひのきしん隊とはなんとすこいところなのか！これが素直な感想です。そしてお

ぢばでの出会いはありがたい、出会いは宝だ、と感じます。

毎日おぢばで伏せ込む中に、色々な事を見せられます。隊員さんの身上や事情を通して、自身身や自分でも嫌になる自分の悪いところが見えてきます。見るもいんねん、聞くもいんねん、世話取りするのは尚のこと。自分の至らなさに反省しきりの毎日ですが多くの喜びも見せていただけます。

「にをいがけに出たい!!」おぢばの理を感じた」解隊日前夜の反省会で挙がる意見です。反省会では、1ヶ月おぢばで伏せ込む中に感じた事、今後それをどう生かすか等、発表していきます。約20人で二時間弱、一人の持ち時間は二分程ですが、二分で済みません。

二分程ではおぢばで感じて伝えたい事が伝えきれないのでしょう。それぐらい大きな宝、勇みをいただけます。ひのきしん隊を終えた人は一様に好い顔、勇んだ顔をして土地とところへ帰っていきます。



笠岡分会では6月入隊となっております。ひのきしん隊の良さをこの文章では伝えきれませんが、何としても一人でも多くの方に入隊していただいて、おぢばの理、教祖の暖かさに触れ、多くの人と出会って欲しいのです。

▼天理教道友社発行『天理時報』、「時報歌壇」・「時報俳壇」より転載

▽笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させていただきます。おめでとございます。

4月8日付 海松ヶ岡分教会 西山 巖さん

盲目の兄打つ太鼓響きおり

みかぐらうたの節目節目に

海松ヶ岡分教会 池田広子さん

孫たちが忘れ帰りし剣玉で

ひとり遊びぬ雨の降る日を

海松ヶ岡分教会 石川泰子さん

誕生日に娘の呉れし万歩計

つけて歩こう七十路の坂

<庶務部>

○教人登録は住民票か戸籍抄本を添えて願書を提出して下さい。

<布教部>

○天理時報増部について

少しでも増部をお願いします。新よふぼくには1年間無料配布されますがその後も継続して購読して頂けるよう丹精をお願いします。

<少年会>

○教会おとまり会について

・平成23年下半年(10月～24年3月)に実施は76隊です。引き続き実施をお願いします。

○少年ひのきしん隊参加について

本年は少年ひのきしん隊発足40周年です。多数参加下さい。

※少年ひのきしん隊

昭和47年“わかぎ”クラスによる地域活動として打ち出された。同57年より、こどもおぢばがえり期間中に「少年ひのきしん隊本部錬成会」として開催され“人のため、つくすよろこびひろげよう”を合言葉に、おぢばでの伏せ込みとひのきしんを通して活動している。参加についての問い合わせは各教区、または支部担当者まで。

<学生担当委員会>

○3月28日親里で開催された春の学生おぢばがえり「直属アワー」の記事が“はっぴすと”5月号に掲載されています。

芦品分教会

金谷眞佐代さん

重なった月次祭と誕生日

笑いあふれる直会の時

4月15日付

海松ヶ岡分教会

池田広子さん

風船に園児らの夢のせてゆく

5月6日付

芦品分教会

金谷眞佐代さん

折鶴をかかえ弟退院す

桜のはなびら舞いちる昼を

海松ヶ岡分教会

藤井光子さん

沈丁花杏連翹わが庭に

満ちみちてゆく春の花ばな

5月13日付

海松ヶ岡分教会

西山いわおさん

押されるも押すも花人車椅子

▼養徳社発行『陽気』誌五月号、「道柳」より転載

▽今回の課題は「縁」、笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させて頂きます。おめでとうございます。

秀 詠 川島郷分教会前会長 香取敏子さん

悪因縁地に伏し肥でよき種を

準秀詠 東悠分教会前会長夫人 田林美智子さん

見えぬ縁神のご守護に道悟る

▼表紙写真

(吉岡輝昭かさおか編集部員)

四月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいませ

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には 人間の陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいとの思召からこの世と人間をお創造つく下されご守護下さるばかりでなく 天保九年教祖を月日の社としてこの世の表にお現れになられ よろず委細の真実をお明かし下さいました加えて明治二十年教祖の現身をお隠しなされて「つとめとさづけ」を通して世界ろくじに踏み均しに出られました事は誠に有難く勿体ない極みでございます

私共は「かしの・かりもの」の御教えを心に 日々喜び感謝の心で通らせて頂くと共に 朝夕に御礼申し上げつつたすけ一条の御用の上に努め励ませて頂いております 又先日十八日春爛漫の陽気の中おちばで執り行われました教祖御誕生祭にも誘い合わせて帰らせて頂き 教祖二百十四回目のお誕生日をお祝いさせて頂きました

そして本日はこれの笠岡大教会にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同喜び感謝の心も一入に 明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて四月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には新年度に当たり導きや育ての上になにかと慌ただしい中に関わりませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌を声高らかに唱和し 日頃の御高恩に改めて御礼申し上げ尚も変わらぬ親心にお継りする状をご覧下さいまして親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて、今月二十九日は全教一斉ひのきしんデーでございます 日頃御恩報じを念じて個々にひのきしんに励ませて頂いておりますが 全教一斉の文字に込められた思いにお応えすべく心を一つに揃えて地域の人々と共に一丸となってひのきしんに励ませて頂きたいと存じます 又来月は直轄教会への巡教月でございます おつとめ奉仕人増員に向けての今日までの成人の歩みを確認し合い励まし合う機会とさせて頂く所存でございます 更には又 昨年お見せ頂いた未曾有の大災害を通してお示し頂いた親心を一人でも多くの人に伝えて 喜び感謝の心と助け合いの心をより強めて頂くべくにいがけおたすけにと邁進させて頂く所存でございます

何卒親神様には 親心に添いきる皆の誠真実の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由のご守護を賜り全ての人々が 一列兄弟の理に目覚め助け合ひまして お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

大教会だより

|| 人事 ||

立教175年4月21日付

会長室

室員

室長

室員

〃

〃

〃

企画運営担当

お運び担当

教会事情担当

吉岡	佐藤	上原	岡本	上原	上原	中村	吉岡	佐藤	上原	今川	上原	岡崎	森本	岡崎	武内
壽	孝	道	繁	喜	澄	剛	壽	道	繁	昌	志	真	忠	和	清
				三	雄			道		彦	郎	一	平	夫	

布教部

部長 副部長 部員

武内清和 三代信行 田中隆之 虫立生 佐藤真孝 中村義太郎 高木昭祥 山野弘実 山野弘実 田林久嗣 豊田宏哉 渡邊隆夫 室悦子 鳥井昭子 福島大介 藤井保人 武内清和 猪原啓文 北川治史 三代幸幸 余村健 渡邊泰造 高田一弘 奥田忠郎

海外部

部長 副部長 部員

史料部

部長 部員

音声動画担当

写真担当

大教会史編纂掛

上原志郎 吉岡誠一郎 上原順子 佐藤真孝 佐藤朋之 津森朋之 上原千枝子 武内敬教 岡崎治喜 岡本正明 宮本裕美 原裕美 北川壮一 三代幸徳 三代節生 門脇元教 中村道徳 浅野明教 山野弘実 山野弘実 吉岡輝昭 友井道弘

相談役

主任

管理部

部長 副部長 部員

(書記)

植木掛

上原繁道 門脇元教 山野弘実 山田敏教 虫立生 藤井正仁 吉岡輝昭 藤本芳久 津森朋之 三代温生 上原繁次 武内清明 虫立生 高木昭祥 横山逸郎 豊田宏哉 矢田哲一 三嶋正教 渡邊孝信 藤井道博 中村義太郎 山野弘実

信者部

部長 副部長 部員

部員

赤木素志 森本忠善 浅野明教 藤井正仁 掛谷宣和 山野弘実 桑田則昭 藤本芳久 中村義太郎 桑田則昭 今川昌彦 上原きよ子 岡崎和夫 今川佐智子 高田賀代子 岡本弘子 三島照美 岡崎和美 上原千枝子 中村理恵

車両管理

電気管理責任者

防災・危険物・ポイラー

放送電気掛

- 1. 霊璽に関する事
 - 2. 大教会及び部属教会の冠婚葬祭、年祭に関する事
 - 3. お供物品の取扱いに関する事
 - 4. 日報作成の事
- 会計部**
- 1. 会計並びにお供物品に関する事
 - 2. 食堂及び賄に関する事
 - 3. つなぎ袋に関する事
- 庶務部**
- 1. 教会事情の諸願書に関する事
 - 2. 布教所設置その他布教所の諸願書に関する事
 - 3. 個人事情願(修養科、講習、登録、扶育等の諸願書)に関する事
 - 4. 諸統計に関する事
 - 5. 渉外事務に関する事
 - 6. 他の部、掛に属さない往復文書に関する事
- 布教部**
- 1. 教義の宣布、布教昂揚に関する事
 - 2. 部属教会育成に関する事
 - 3. 教会長、教人、よふぼく、信者育成に関する事
 - 4. 各種講習会、大会、研修会、対外ひのきしん、路傍講演に関する事
 - 5. 本部、詰所関係のひのきしんに関する事
 - 6. 文書並びにその他国内布教に関する事
- 海外部**
- 1. 海外伝道に関する事
 - 2. 海外布教所、よふぼく信者の育成に関する事
 - 3. 海外巡教に関する事
 - 4. 日本在留の外国人布教伝道に関する事
 - 5. 外国人参拝者の世話取りに関する事
- 史料部**
- 1. 史料の蒐集、保管、編纂、提示、展観に関する事
 - 2. 本部史料集成部との連絡に関する事
 - 6. 文書並びにその他海外伝道に関する事
- 管理部**
- 1. 建造物、施設及び備品の管理
 - 2. 清掃衛生に関する事
 - 3. 大教会ひのきしんに関する事
 - 4. 墓地に関する事
 - 5. 教旗掲揚、献灯に関する事
 - 6. 車両の管理に関する事
- 信者部**
- 1. 教祖殿の掃除に関する事
 - 2. 食堂・布団・各部屋の清掃等、信者受け入れに関する事
 - 3. 客殿・会長宅等、接待に関する事
- 育成部**
- 1. 教会長、教人、よふぼく、信者の育成に関する事
 - 2. 教人資格講習、教会長資格検定講習、任命講習の修了講習会に関する事
 - 3. 本部育成部主催の各種講習会の世話取り
- おたすけ掛**
- 1. おたすけ講話(月次祭日)及びおたすけ全般
 - 2. 部内・布教所へのおたすけ
 - 3. おたすけ相談
- 詰所掛**
- 1. 詰所管理運営に関する事
 - 2. 信者宿泊に関する事
 - 3. 修養科、講習の手続き並びに別席、をびや、おまもりに関する事
 - 4. 部内教会事情願書の取次に関する事
 - 5. おぢば在住の教人、よふぼく信者、学生生徒育成監督に関する事

◎立教175年直轄巡教

府中市	上石下	明石市	皆部	新山邑	輝美濃	照陽	吸江	東悠	海松ヶ岡	呉照	芳井	陶山	ひろさと	興明	金浦	摩耶	陽備	弥高山	鶴山	久松	島根	神邊	高屋	福山
上原繁道	大教会長 剛	中村 剛	大教会長 善	岡本久 善	中村 剛	佐藤道 孝	吉岡 壽	中村 剛	大教会長 剛	大教会長 剛	岡本久 善	佐藤道 孝	中村 剛	上原繁道	上原繁道	佐藤道 孝	中村 剛	大教会長 剛	大教会長 剛	佐藤道 孝	大教会長 剛	大教会長 剛	岡本久 善	吉岡 壽

東城	服部	島中	驛家	油木	葦陽	湯田原	備中	神昭	美之郷	錦備	笠晴
中村 剛	岡本久 善	上原繁道	大教会長 剛	大教会長 剛	上原繁道	吉岡 壽	吉岡 壽	大教会長 剛	吉岡 壽	中村 剛	中村 剛



四月二十九日、全教一斉ひのきしんデーが執り行われました。うちの教会からは十六人が参加して、遙照山公園で清掃活動をさせて頂き、全体としては、八十二名と例年とほぼ変わらない人数でした。

今年、提唱八十年の節目の年であり、おぢばからは、「勇んだ実のあるひのきしんデーに」との声を頂

いていきましたが、声掛けが徹底されていなかったのか、又自分自身、恒例行事の様に、持つ意識が足りなかったのか、とも反省しましたが、ともあれ、すばらしいひのきしん日和のお天気を頂戴し、参加された方々が、皆んな勇んでたすけ合いながら、ひのきしんをされている姿を見て、晴れ晴れしい気持ちになりました。

当日は、日曜日・祝日という事も重なり、市の推進する健康づくりの一環として、遙照山へのハイキングを大勢の方々が参加されており、汗を流してひのきしんをしている我々に笑顔で挨拶して通って下さる姿にうれしくなりました。市の広報を見ていると、活動の上から言えば、お道の活動以上に楽しむ企画も、そして、宗教的な束縛が無い点から言えば、人の寄り易さも時代に合った取り組みだと感じます。

しかし、考えてみれば、そこにはその場だけの楽しみや、個人での満足が多くを占めている様に思いま

す。

震災以降、絆という言葉をよく聞く様になりましたが、今失われつつある家族の絆や地域社会との繋がりを考えると、その場だけ・表面上の楽しみなどでも、地域活性化の手段ではあるけれど、末代に向け、心を繋いでゆく為には、やはり親神様のみ教えを知るという事は必要不可欠な事だと思えます。今、生かされている事への感謝の気持ち、目に見えない、又気づかないで健康に御守護頂いているという事を、私達お道の信仰に関わる者は、有難い事にそれを日々の中に聞き、知っているという幸せへの道筋をお教え頂いています。それを実行するか、しないかがそれぞれの信仰者としての今の姿の様に思います。私自身、身に迫る事がないとなかなか実行に移せない事ばかりではありますが、朝・夕のおつとめの中にも、そこに心が込められる様、少しずつでも成人の歩みになる様、一つ一つの日常生活を見つめ直したいと思っています。(む)